

**日時** 平成16年3月13日(土曜日) 午後3時～午後5時頃まで(午後2時30分より開場)

**場所** 北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館「こやのせ座」

**料金** 一般―前売二千円(当日二千五百円)・小中学生―前売一千円(当日一千五百円)

※入場は小学生以上に限らせていただきます。

※チケットは、木屋瀬宿記念館にて販売します。又、電話での予約も記念館にて受付ますので、詳細は左記へご連絡下さい。

**連絡先**  
北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館  
電話〇九三・六一九・二四九

狂言「盆山(ぼんざん)」 野村万禄  
盆山とは庭に築かれた小山や箱庭の事で、その盆山を盗みに入った泥棒が見つかりそうになり動物の鳴き真似をしてごまかそうとしますが、さて、如何なる結末となるでしょう。



**演目紹介**  
能「巴(ともえ)」 森本哲郎  
源の義仲の側妻で武勇の誉れ高き巴御前の事で平家物語「源平盛衰記」を題材にした「女修羅物」としては唯一の演目と云われています。

**第二回 「こやのせ座」開催**



北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会広報部  
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)  
TEL 093-619-1149  
FAX 093-617-4949

**応募内容及び応募方法**  
テーマ…木屋瀬の町並み、祭り、行事、神社、仏閣などの四季折々の風景。撮影及び応募の期間をそれぞれ前期・後期に分けて実施致します。

**【前期】**撮影期間▼平成15年11月1日～平成16年4月30日迄。  
応募期間▼平成16年5月1日～平成16年5月31日迄。

**【後期】**撮影期間▼平成16年5月1日～平成16年10月31日迄。  
応募期間▼平成16年11月1日～平成16年11月30日迄。

**応募先**〒812-26 北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26 長崎街道木屋瀬宿記念館「木屋瀬」



**自慢の写真で賞金ゲット!**  
**第1回 「木屋瀬の風景」写真コンテスト**  
五月一日より前期作品の応募受付がはじまります

**「高野家展」開催**

平成16年2月7日(土)から3月7日(日)まで、みちの郷土史料館において企画展「高野家展」を開催します。

今回は「町並み資料館シリーズ」の第六弾「高野家」を取り上げ、高野家に伝わる掛け軸・屏風・木屋瀬にまつわる古文書などを展示し、木屋瀬の歴史と生活の様子をお伝えします。毎年11月3日の宿場まつりの時にも公開されている高野家の所蔵品が公開されます。この機会をお見逃しなないように!

みちの郷土史料館 第12回企画展 町並み資料館シリーズ 第六弾

**「各賞表彰内容」**  
前・後期の入選写真各20作品には賞金三千元と副賞として図書カード千円分を差し上げます。更に、見事入選された作品の中から以下の各賞を表彰致します。

▼金賞(二作品)：賞金三万円、及び副賞として北九州市観光協会賞(トロフィー)、記念品

▼銀賞(二作品)：賞金二万円、及び副賞として北九州コンベンションビューロー賞(トロフィー)、記念品

▼銅賞(三作品)：賞金一万円、

及び副賞としてニコン賞(トロフィー、記念品)

**■審査結果(入選作品)発表**  
「こやのせ座」にて発表します。

**【前期】**平成16年6月中旬。  
**【後期】**平成16年12月中旬。

三賞の発表は17年1月初旬に行います。併せて応募写真の展示も行います。期間は平成16年7月及び平成17年1月(予定)。

※詳しくは、木屋瀬宿記念館までお問い合わせ下さい。  
電話(〇九三)六一九一一四九

**消えた木屋瀬一植木の石投げ合戦**

●第1回●  
北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館 学芸員 神崎宏士

あれは私が木屋瀬宿記念館に学芸員として勤務し始めてから初めて迎えた夏、2002年6月のことだった。星ヶ丘市民福祉センターにおいて“笹田・金剛の歴史”という講座が開催された。講師は香月史談会の千々和昭男先生である。千々和先生は私の高校時代の恩師で、高校を卒業して以来お会いしていなかったこともあり、また、木屋瀬宿記念館の学芸員としても一度挨拶しておかなければならないと思い、その場に出向いた。

講座が始まる前ほんの数分間だったが、私の近況を報告した。高校卒業後、大学、大学院と民俗学を専攻し、現在は木屋瀬宿記念館に勤めている話などである。その際、先生から「木屋瀬の民俗といえば、石合戦の話聞いた事がないですか。」と訊ねられた。私は初めて聞く言葉に戸惑った。雑務に追われる名ばかりの学芸員の浅学を恥ずかしく思った。“勉強不足を叱られるかもしれない”と、すっかり高校生の心に戻った私は、恐る恐る先生に訊ねてみた。先生はにこやかに話してくださいました。「木屋瀬と(遠賀川対岸の)植木との間で、子供たちが石を投げ合う風習があったらしいのですが、それ以上はよくわかりません。」と、先生も詳しくはご存知ないようだった。

これは木屋瀬宿記念館の学芸員として、なんとしても調べねばならない、と心に火がついた。それはどんな風習だったのか。なぜ石を投げ合ったのか、なぜなくなってしまったのだろうか。私は調査を開始した。(次号につづく)

**「第三回 木屋瀬いろは歌留多大会」**

過日二月十二日、「こやのせ座」正月の恒例行事「木屋瀬いろは歌留多大会」が総勢二百五十名余の老若男女が参集し盛大に執り行われました。

今年の入賞者は、(敬称略)  
【小学生の部】優勝：榎田晃宏(木小六年)／準優勝：柳明里(木小六年)／第三位：柳七彩(木小四年)／かわそえまり(星ヶ丘小二年)。

【一般の部】優勝：越智恵理(木中二年)／準優勝：中原浩和／第三位：池内絵美(木中二年)・藤沙也加という結果でした。

昨年より「木屋瀬いろは歌留多」が木屋瀬小学校六年生の「総合的な学習の授業」に取り入れられた学習効果が顕れたようです。

**「かるた」で木屋瀬の歴史・風物を学ぶ**

「木屋瀬いろは歌留多」とは、故・岩井屋不彫(岩尾四十三郎)さんが病の折、入院中の病院から毎日のように孫に宛てて投函された葉書に描かれたもので、木屋瀬ならではの歴史・風物・伝承などを多彩に織込み考案され、不彫さんの非凡な造詣と郷土への深い思いが伺えると共に、永い歴史に培われてきた木屋瀬のイロハを学ぶ事の出来る貴重な作品ですが、「木屋瀬いろは歌留多大会」開催の為、不彫さんの遺訓を継ぐ岩井屋当主・岩尾二郎氏のご厚意のもと、初めて限定制作させて戴いたものです。

尚、参加記念品は第一回より歌留多の絵札と読札を染め抜いた和手拭いで、今年はいろはの「黄櫨の木境が郡境」四十七回参加すれば「木屋瀬いろは歌留多」全部揃うと云う趣向となつて居りますれば、未永くご参加ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

こやのせ座運営部会長 柴田泰助

**編集後記**

天気予報が「今年も暖冬です」なんて言うから油断しているところに、先日突然の大寒波。ただでさえ雪慣れしていない土地柄だけに各所で大混乱、当然私もその混乱に巻き込まれました。雪が降るとは言いませんが、暖冬と言うくらいなら、それなりに手加減して降ってくればと、勝手に思ったりもします。雪が降ると喜んでいたら頃はるか遠い昔話のようです。(た)

**木屋瀬宿記念館の利用状況** 平成13年1月1日に開館して以来、多くの人に利用していただいています。平成15年1月～平成15年12月までの利用状況は次のとおりです。(単位:人)

みちの郷土史料館		こやのせ座		みちの郷土史料館		こやのせ座	
1月	521	585	908	1,049	628	527	
2月	613	950	368	458	1,099	975	
3月	820	230	1,663	807	1,145	863	
4月	531	730	4,782	1,316	341	1,107	
合計				13,419	9,597		





養成講座の受講風景

長崎街道木屋瀬宿記念館開設に伴い、近年、木屋瀬を訪れる人が多くなり、また館内や町並み案内を希望される団体や個人の方々の申し込みも増えてきました。現在、みちの郷土史料保存会の会長水上氏と副会長の井上氏が献身的に案内をなさっておられますが、今後の事も考え、まちなみ案内のボランティア要員を養成する事になりました。この

### 木屋瀬まちなみ案内ボランティア養成講座を受講して

本町 野口靖彦

ような趣旨で、平成15年10月17日より、全8回の養成講座が開催されました。九州大学名誉教授丸山先生からは、近世交通史の立場から長崎街道と木屋瀬について、北九州市立自然史・歴史博物館の永尾参事(学芸員)による、北九州地域における、宿場と街道について、地元の水上裕氏と井上昭太郎の両氏による、現地に赴いての、まちなみ案内の仕方や歴史についての学習や指導を受けました。また、他の地域のまちなみ案内を学ぶ為に、門司港レトロ地区と山口県の長府を見学しました。受講生は20名で、木屋瀬地区以外の参加者も多数おられました。皆大変熱心に受講され、全員修了証書を授与されました。今後は、まちなみ案内養成講座卒業生として、木屋瀬を訪れる方々へお役にたてるように、研鑽を積んで行きたいと思っています。

「須賀神社宝物展」  
平成15年10月25日(土)から11月30日(日)まで、みちの郷土史料館において、企画展「須賀神社宝物展」が開催されました。初の試み「収蔵庫蔵出しシリーズ」の第一弾として、当館の収蔵庫に保管してある須賀神社からの寄贈資料を中心に、現在須賀神社が所蔵する社宝も借用し、普段なかなか目に触れる機会のない宝物を堪能していただきました。期間中の入場者数は136人でした。ご来館ありがとうございました。

### 「須賀神社宝物展」報告



報告

## 跡見 史短

~其二~

### 旧高崎家住宅(伊馬春部生家)

みちの郷土史料保存会 会長 水上 裕

旧高崎家住宅が北九州市有形文化財(建造物)に指定されたのは平成6年3月30日である。指定理由としては次の三点であった。

- 建築年代が明確である(墨書銘)
- 正確な復原が可能であった。
- 江戸時代末期の大商家の代表的な宿場建築である。

年代が古くて傷みがひどく、解体復原の必要の上、発掘調査を含めた調査で色々のことが分かった。最後の昭和六十年頃を含めて

四度の改築がなされた訳だが、復原して我々が現在見るのは、一度目の改築(天保六年)の姿である。旧高崎家は屋号を柏屋(カネタマ)といい、本家柏屋(カネシメ)七代目四郎八が早々に息子新三郎に家督をゆずって隠居をしたのが文政元(1818)年頃で最初の建築である。その後、前述の天保六(1835)年の改築で、奥座敷(八畳)と横座敷(四畳半)、それに街道側座敷の二階と奥座敷の二階を増築し、従来の一階を店に改め、天保七年に家移りをして

ているのは、表二階の梁の「墨書銘」で知れる。四郎八は文政八(1825)年から町年寄を務め、翌年には大庄屋格に任ぜられている。嘉永(1848-1854)の頃は板場(絞蠟業)を経営し、明治六(1873)年頃は醤油醸造業を営んでいた。多くの来訪者の中には、全国からの宮大工が多く、複雑で合理的な施行建築については、見るや否や賛嘆の声を発する点、北九州の宿場建築の中でも文化財の名に恥じないものとの自負を持つ地元である。



伊馬春部生家

### 「第十一回筑前木屋瀬宿場まつり」報告

過去、第九回に続き第十回と天候不順に見舞われた「筑前木屋瀬宿場まつり」でございましたが、今回は天候にも恵まれ、ご周知の通り、過って無い人出と賑いの中に恙無く挙行することが叶いました。これも一重に皆様方のご理解とご協力の賜物と、関係者一同深く感銘の上、心よりお礼を申し上げます。

因みに今回は「実行委員会スタッフ数」約百七十名(参加8団体・出仕者及び木屋瀬小学校・地元消防団等を含む)、「出演者数」約二百五十名(伝承盆踊り団体・香月中学マーチングバンド・消防マ

チングバンド・筑前塾・大道芸等)に加え、「木屋瀬宿記念館運営協議会」「北九州観光協会」「木屋瀬商工連盟」「伊馬春部記念館」「筑前木駅・茶目つぎ一輪」の「ていす」の諸団体に協賛いただき、また、恒例の町並み資料館として松尾・梅本・井上・瓜生・松本家にはご自宅を一般開放。夫々の家に代々伝わる品々を展示戴くなど多くの方々にご参加ご協力戴きました事を此処にご報告申し上げます。

### 「新地合同クリスマス会」

昨年暮れの12月21日、新地町子供会と真名子団地子供会の合同で

クリスマス会を行いました。当日は、45名の子供たちが参加しました。ゲームや手品やプレゼント交換「きよしこの夜」を合唱しながらのキャンドルサービス等、楽しい時間を過ごしました。また、今回は「子供地球基金」に賛同し、ほんの少しですが、助け合いの気持ちで身に付ける事が出来ました。次回もまた楽しいクリスマス会を行いたいと思います。



新地町子供会会長 奥 智照

### 「どんどこやき」の由来と木屋瀬での起源

須賀神社宮司 末松公博

民俗学者柳田国男氏の説によると、昔より小正月(一月十五日)に部落民が共同して野外で大きな火を焚き祭をする習い、とあり。地域によってその名称は「ドンド」「ドンドンヤキ」「サギチヨウ」その他諸々である。この焚火に各家々の正月お飾を納めて焼く。又、この焚火にあたり鏡餅を焼いて戴くと厄除になり、習字(書初)の紙を投げこみ高く上がると字が上達すると云われている。



木屋瀬では三十年前本町の子供会が主催し、老人会をお持て成ししていたが約十年で子供会の衰微とともに神社が受け継ぎ、全町にも呼びかけ青年会の参加もあつて段々と盛会になって来ましたが。今年木屋瀬地区は須賀神社境内で(12日)、野面町内は八所神社境内で(12日)、深田・山浦はそれぞれ公民館広場(11日)、笹田地区は星ヶ丘の子供会と合同(11日)、香月則躬氏宅前の田圃で、お天気もよく、それぞれ、ぜんざいや豚汁等を戴いて賑わった。

## 筑前木屋瀬 お茶の道

故尾四十三郎氏著書「のぎ座」より掲載



- 七首 (ふつぎ)
  - すし
  - 吸もの
  - タラ煮しめ
  - おばいけの酢みそ。
- 八首 (はつぎ)
  - 男の児は笹づり
  - 女の児はダブイナ・稗の粉をこねち、いがち、又こねち、又いがち、それに食紅やら、墨で色づけし、色々なもんを作る。
  - たなばた(六日・七日)
    - 煮・メ・たら・ごぼう・さき
    - かき・かきも・むすびごぶ
    - まさごめぜん。(ねまりやすい)
  - 九首 (ながつぎ)
    - 三つしんさま(二日)
    - 煮・メ・ごぼう・ごぶ・いじん・こんにやく・たら
    - 小豆ごぜん。
    - 煮・メ・たら・ごぼう・さき
    - かき・かきも・むすびごぶ
    - こんにやく・ごぼう・いじん
    - 小豆ごぜん。

### 「宿と土産と木屋瀬」

伊勢音頭恋寝刃は、古市の妓楼油屋を舞台とした物語である。敬虔な信者や、真面目な遊び人には、甚だ迷惑千萬な事である。木屋瀬宿の旅籠は、こうした事に真剣に取り組み、遊女はおろか、出来るだけ相客も避け部屋も明るく清潔にして、人々の良き憩いの場となるように努めた。宿での食事は、旅を重ねる人々の大きな楽しみの一つであった。今日からすれば、実にわびしい事ではあるけれど、平常一汁一菜に慣らされていた人達が、毎日三度白飯を食べ魚や刺身等も味わえ、当時の庶民には夢のごとき喜びであった。「泊まれ泊まれ旅の客、足も手もつかうかろ」と木屋瀬宿の御泊まり講は、全ての事に注意を払い、旅の人々に喜ばれていた。



【柴田豊廣遺稿集】より